

～平成21年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査～

## 本県児童生徒の体力・意欲は良好な状況

本調査は文部科学省が平成20年度から実施している調査で、全国の小学校第5学年、中学校第2学年の児童生徒を対象に、平成21年4月から7月末までの期間に行われたものです。この度、その調査結果が発表され、本県児童生徒の体力・運動能力は昨年同様に良好な状況でした。これは、学校教育を中心としながら、家庭や地域の教育力、県内大学等の協力によるものであり、児童生徒の意欲的な取組はもちろんのこと、教育委員会や各学校等において健やかな体をはぐくむ教育活動や施策、運動・スポーツ環境整備等が効果的に行われていることの証であると考えています。

### 調査内容

#### 【実技に関する調査】

- ①握力
- ②上体起こし
- ③長座体前屈
- ④反復横とび
- ⑤20mシャトルラン(小)  
持久走 [男子1500m、女子1000m]  
※中学生は、どちらかを選択して実施
- ⑥50m走
- ⑦立ち幅とび
- ⑧ソフトボール投げ(小)、ハンドボール投げ(中)



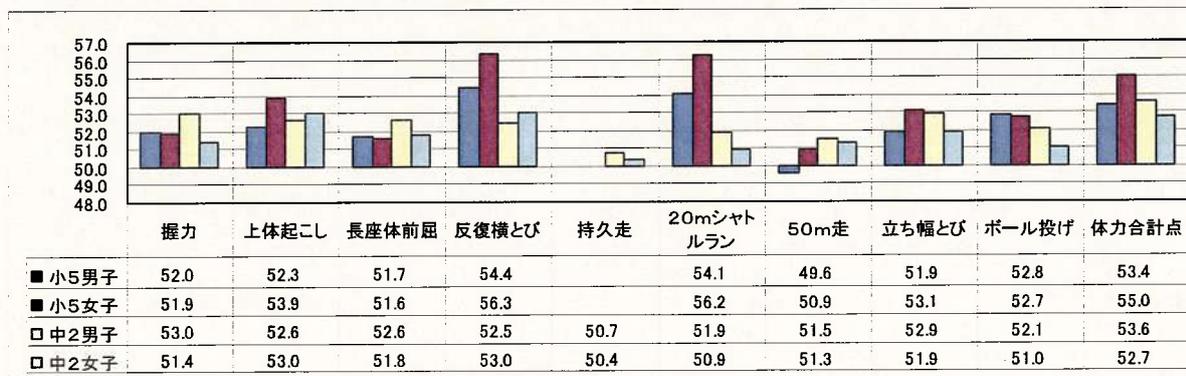
#### 【質問紙調査】

- 児童生徒対象  
運動習慣、生活習慣、食習慣、体育・保健体育の授業に関する意識等の項目
- 学校対象  
体育・保健体育の指導及び特別活動等に関する項目

### 1 実技に関する調査結果

小学校第5学年男子の「50m走」を除くすべての種目で全国平均を上回りました。「50m走」と「持久走」の走に関する種目が、他の種目よりT得点が低い傾向にあります。

【資料1】種目ごとのT得点



※T得点：全国平均を50としたときの偏差値

体力合計点：8種目の体力テスト成績を1点から10点に得点化して総和した体力テスト合計得点

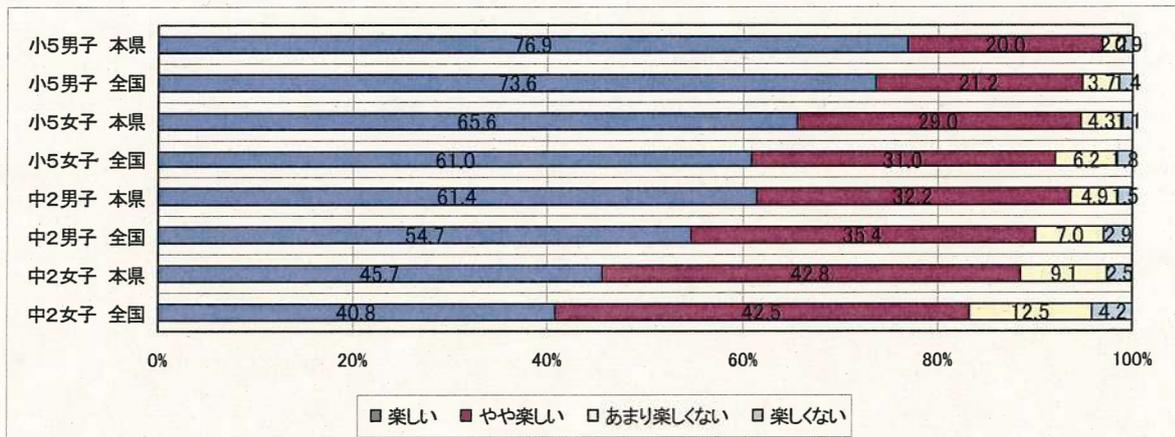
## 2 児童生徒の質問紙調査の結果

本県の児童生徒の運動習慣、生活習慣、食習慣、体育・保健体育の授業に関する意識等の項目は、全国の状況と比較した場合、いくつかの課題は見られますが、全体としては望ましい傾向です。体力とともに体育・保健体育の授業に関する意識が全国に比べ良好な状況であるのは、質の高い体育学習が展開されている証であると考えます。

【全国と比べ良好な状況である項目】

- 「体育・保健体育の授業では、体の動かし方や、うまくなるためのコツがわかりましたか」
- 「授業で学んだことは、将来役に立つと思いますか」など

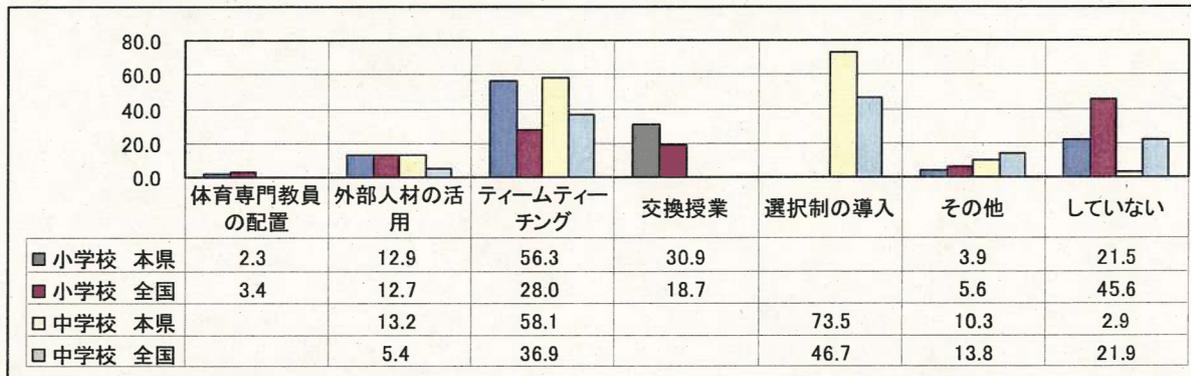
【資料2】「体育・保健体育の授業は楽しいですか」の設問



## 3 学校質問紙調査の結果

本県の小学校と中学校は、学校内で様々な工夫をして授業を実施しています。

【資料3】体育の専門性などを重視した指導を実施していますか



## 4 県教育委員会の取組

本県がこれまで行ってきた体力向上に関する事業の成果と課題等に加えて、本調査の分析を加味しながら、本県の児童生徒の体育・健康に関する指導に生かして参ります。

【体力向上に関する県教育委員会の取組（平成21年度）】

- 小・中・高等学校学校体育担当者連絡協議会の開催（課題と取組の共通理解）
- 体育学習テクニカルサポート事業の展開（指導力の向上）「教育あきた」で紹介
- 新体カテストの全員実施（抽出分析）、ライフスタイル調査の抽出実施
- てくてくとく歩いて学校へ行こう運動の推進
- ゆたかなライフスタイルをめざした啓発ポスターの配布
- 学校体育・健康教育資料集の発行